

科目名	専門演習Ⅲ Seminar III						
科目担当者	村田 治彦 MURATA Haruhiko						
単位数	4	配当年次	4年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科 [専門教育科目 演習] 他学部他学科履修×				ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)	
授業の概要	演習Ⅰ・Ⅱで報告した題材を下に、授業計画に従って、各自で作成する。 指導は適宜必要があれば呼び出すが、基本的には電子メールのやりとりを通じて、添削を通じて行う。						
授業の到達目標	①視点・問題意識をもって、テーマを選択し、到達点を明らかにする。 ②先行研究を収集し、卒論作成の計画を立て、独自の見解に基づいて考察を行う。 ③電子メールを通じての添削、中間発表等による質問・意見を反映させる。 ④論理的に考える能力に基づいて、学術論文の形式を踏まえて作成する。						
授業計画・内容	1	オリエンテーションー卒業論文とは？	16	論文を書く2			
	2	仮テーマの選択・提出	17	論文を書く3			
	3	資料収集1	18	論文を書く4			
	4	資料収集2	19	論文を書く5			
	5	参考文献リストの作成方法	20	論文を書く6			
	6	文献の読み込み1	21	中間発表1			
	7	文献の読み込み2	22	中間発表2			
	8	文献の読み込み3	23	中間発表3			
	9	文献ノートの作成1	24	中間発表4			
	10	文献ノートの作成2	25	論文を仕上げる1			
	11	文献ノートの作成3	26	論文を仕上げる2			
	12	アイデアノート	27	論文を仕上げる3			
	13	仮目次の作成	28	論文を仕上げる4			
	14	仮テーマから題名へ	29	論文を仕上げる5			
	15	論文を書く1	30	卒業論文完成・提出			
授業外学修 (事前学修)	事前学習として、執筆計画を立て、資料収集、資料の読み込み、文献ノート・アイデアノートの作成、論文構成の手順を経て、章や節の書ける部分から書いていき、下書きとして書き上がったところについては、事後学習として中間発表をし、質疑応答を通じ、足りない点を踏まえ、添削を受けることに尽きる(毎回120分)。						
授業外学修 (事後学修)	専門演習Ⅰ・Ⅱで学んだ民事訴訟手続(ADRを含む)を題材に卒業論文を作成し、提出する。 何を扱うか、テーマが決まったら、足りない資料を集め、読み、先行研究をまとめ、文献ノート・アイデアノートをつくり、執筆目的を踏まえて、論文全体の構成を立てる。そして、本論の書きやすいところから埋めていき、序論・結論を加えて、下書きをつくる。最後に、下書きを校正して、完成する。独創的な新しい考え方を提示するよりも、先行研究を踏まえて、取り上げた裁判例を通じた、紛争解決規範について、どのような考えが背景にあるかを整理して、理解を説明できることである(毎回120分)。						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法			評価比率	到達目標との対応		
	参考資料を収集する			10%	①		
	論文計画を立て、準備する			10%	①、②		
	下書きを作成し、添削を受ける			20%	①、②、③		
論文を仕上げる			60%	①、②、④			
成績評価基準	秀：(評点90点以上)到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：(評点80点～89点)到達目標を高い水準で達成している場合 良：(評点70点～79点)到達目標を一定の水準で達成している場合 可：(評点60点～69点)到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：(評点60点未満)到達目標に達していない場合						
教科書	特になし						

参考文献	井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法（第3版）』（慶應義塾大学出版会・2022）
その他	